



「のろしはあがらず」 井上光晴

井上光晴は大正十五年、福岡県久留米市に生まれ、少年時代を崎戸町、佐世保市で過ごした。

戦後日本共産党に入党し、詩や評論を書き始めるがその後離党。昭和三十一年上京し、意欲的に執筆活動を続ける中で「虚構のクレーン」、「地の群れ」等の作品を発表し、作家としての地位を確立した。その後も、原爆・戦争・炭鉱をテーマにした作品を書き続けた。

昭和五十二年には、佐世保市に「第一期井上文学伝習所」を開いた後、全国各地で開講し、後進の育成にも力を注いだ。

平成十六年、崎戸歴史民俗資料館に「井上光晴文学室」が開設された。隣接する公園には井上光晴文学碑建立委員会により文学碑が建立され、昭和二十一年に作られた詩「のろし」が刻まれている。

のろしはあがらず のろしはいまだあがらず

ああ五月野に 草渴るるまで

のろしはあがらず のろしはいまだあがらず